

E-13 住空間と洗濯について

奈良女大家政 ○富士田亮子
北村 君
近藤 公夫
疋田 洋子

1. 家事の能率化が重要と考えられている今日、家事の中で大きな割合を占める洗濯のその行為（例えば脱衣、洗濯、乾燥、収納等）と間取り・設備との関係、また、共同化、社会化等に対する主婦の意識を知ることが、住空間管理を考える上で意義がある。

2. 奈良市内の住宅公団鶴舞団地において、200家庭の主婦を対象に、住居・設備との関係、家族の協力、社会化、共同化等の主婦の意識について面接調査を行なった。期間は昭和44年7月。

3. a) 洗濯行為と間取りとの関係では、浴室の前で脱衣・洗濯、バルコニーで乾燥、6畳間で取り込み・分類、4.5畳・6畳間で収納するという型が多い。

b) 家族の協力は、「自分の着替えを取り出す」、「汚れたものを洗濯場所にもっていく」行為では多くみられるが、「洗濯」、「乾燥」、「収納」する行為等ではほとんどみられない。

c) 設備の共同化については多くの家庭で希望していない。社会化については「下着類を除いて利用したい」が多くなっている。